



【森林工芸館のあれこれ】は
昨年四月にno.01を発行してから
三月でまる一年を迎えます
森林工芸館や共同工房、どま工房について
「皆さんに知っていただきたい」
と、発行をしてきました
まだまだ、伝えたいことはたくさん
あれこれ二年目の来月号からも
楽しんでいただけたら嬉しい限りです
さて、今月は森林工芸館の活動に欠かせない
「木」についてをもう少し
前号の「材料」とは視点をかえて
「木」の魅力を皆さんにお伝えしていきます

ひとつとして 同ではない

それぞれの個性
「木」の魅力

森林工芸館と関わる「木」のお話

おなじ種類の木でも、例えば木目や色味が違うように
一緒のようで、それぞれに個性をもつ「木」の魅力

人と、木と、おけと



【オケクラフトでは？】

オケクラフトで使用されるメインの木は「エゾマツ」。なかでも、特徴とされるのは欠点材とされてきた「あて材」を使うこと。オケクラフト誕生当初に比べ、使用される頻度も少なくなっていますが、木目がはっきりと美しく表れるので、とても印象深い器になります。

同じ「エゾマツ」でも印象が変わる



【木に親しむ日では？】

「木に親しむ日」では、色々な木にも慣れ親しんでもらおうと、個人では触れにくい木にも触れていただけるように考えています。ナラやタモ、クルミなどの広葉樹がメインになりますが、



はぎあわせとオイル仕上げ

磨き上げるとつやっと仕上がるものや、加工することで香る木の香りをモノづくりと一緒に体験できます。また、様々な加工法についてもお伝えしています。

【モノづくり教室では？】

「木あそび展」や「モノづくり教室」など、手道具を使って製作する教室では、やわらかく加工しやすいカツラや、彫刻などでよく利用されるイチイ等をメインの木として扱います。

カツラやイチイはそのほか、色味が美しいことも教室で扱うひとつの理由です。自然の色の強さを知ることができます。

木あそび展でのモノづくりの様子



photo: 田口真樹子

no.5【オケクラフトの歴史】で掲載

【現在、使用される樹種は？】

オケクラフトで現在、使用される樹種はエゾマツをメインとして、針葉樹・広葉樹あわせて約 20 種類。「木」の個性によってかかる手間も仕上げも様々です。工芸館で手にすることができる「木」の個性についてご紹介します。

【エゾマツ】

柔らかく加工が容易。加工後の手触りも良く、椀や皿などの材として人気もある。

【カバ】

肌目が緻密（ちみつ）で上品な印象を持つ。赤味が強い真樺は近年では希少な材料。

【カエデ】

やや堅く加工もやや困難。しかし加工後の表面には艶があり、美しい表情となる。

【サクラ】

木肌が緻密で加工しやすい。加工時の香りが良く、加工後の仕上げりも美しい。



【秋岡コレクションでは？】

北海道に限らず、全国各地の生活道具が収集されている「秋岡コレクション」では、北海道では見慣れない・聞き慣れない木を用いたり、その加工法も様々に見られます。

江戸時代のお弁当箱や家具などは、経年変化した木の美しさ、耐久性などを知る機会にもなります。



no.6/no.7【秋岡コレクション】で掲載



「木」それぞれの特徴や個性を知ると、「どこにどんな木を使おうか」「どんな加工をしてみようか」など、モノづくりの過程をさらに楽しむことができます。ただひとつ扱う側として注意したいのが、例え加工後であっても根を生やした土地が「木」にとっても一番適した環境であるということ。そんなことも少し気にしてみると「木」の見方が変わるかもしれません。